

体験談

私の病床体験

左耳の下部に急に違和感を覚え、押すと痛みもあったので、近くの病院を訪れたのは2002年のこと。1週間ほど抗生剤を注射したものの改善せず、少し遠い総合病院を紹介されました。

そこでは通院による点滴での抗生物質の注入を行いましたが、腫れも引かず、痛みも増してきたため、入院の上、患部を切開して生体検査に。2週間ほどで「急性・悪性リンパ腫」とわかり、すぐに他の病院へ連絡を取ってくれて、翌日入院。今度は患部の生体と背中から取った骨髄を検査に出したところ、リンパ腫に加え、ATL（成人型T細胞白血病）もあると診断されました。

即座に無菌室に移され、そこから24時間打ちっぱなし、週5日4週間にわたる抗がん剤治療が始まったのです。考える余裕などまったくありません。毎日の処置、治療に耐えるので精一杯。それが終わると放射線治療。いわゆる「がんの標準治療」です。

これをひと通り終了して、約5ヵ月の経過観察ののち退院。しかし退院時の注意事項（人混みには行かない等）を受け、約2年間は引きこもり生活を経験しました。その後、担当医の勧めでぴあサポーターの研修や講習を受けるようになり、19年が経った今ではぴあサポーター活動にも積極的に取り組んでいます。

私は自身の体験からこう思うのです。「心の扉を開けて呼びかけてみよう。きっと誰かがあなたの声に耳を傾けてくれる!!」

(70代 男性)

あなたに合った
治療法と一緒に
考えましょう。



同じ病気の人のお話を聞いてみる → P40

コチラもCheck! 『がんになったら手にとるガイド』

→ 「治療法を考える」

第2部

よりよい療養生活をおくるために

